

議事録

1. 件名：「令和元年度核燃料輸送容器のスラップダウン落下試験に係る影響評価手法の精緻化」に係る打合せ
2. 日時： 令和元年 10 月 31 日(木) 13:30～16:30
3. 場所： 原子力規制庁 16 階 会議室
4. 出席者： 原子力規制庁
長官官房技術基盤グループ 地震・津波研究部門
大橋首席技術研究調査官、日比野統括技術研究調査官、石田技術計画専門職、北村主任技術研究調査官、永井技術研究調査官、吉村技術参与、澁谷技術参与

三菱重工業株式会社

パワードメイン 原子力事業部 機器設計部 主任 他1名

5. 要旨：

長官官房技術基盤グループ 地震・津波研究部門では、核燃料輸送容器のスラップダウン落下試験に対する構造健全性評価手法の適用性を確認するため、核燃料輸送容器のスラップダウン落下試験に係る安全研究を、平成 29 年度から令和 2 年度にかけて計画し、実施している。当部門では、本安全研究の一環として、三菱重工業株式会社と請負契約を締結し、「令和元年度核燃料輸送容器のスラップダウン落下試験に係る影響評価手法の精緻化」事業を実施している。

当事業に係る第二回打合せを実施した。内容は下記のとおり。

- ①下部衝撃緩衝体の圧縮試験供試体について、図面に基づき概ね問題ないことを確認した。今後、承認手続に進むこととした。
- ②核燃料輸送容器の落下解析条件について議論した。解析上の落下高さは昨年度実施した試験と同一とすることとした。また、上下の衝撃緩衝体の条件について、変形量一致ケースと吸収エネルギー一致ケースについて検討することとした。
- ③核燃料輸送容器の静解析条件について確認した。応力評価位置を確認し、試験結果と比較できるように出力することとした。
- ④木材の材料試験条件について議論した。供試体への孔開け加工の有無について検討し、孔開け加工を行うこととした。また、供試体の変位計測方法を確認し、供

試体形状を踏まえ、可能な限り接触式の計測器を用いて計測することとした。

⑤今後の供試体製作、試験工程について確認した。

6. その他

特になし